

社会活動

Social Responsibility

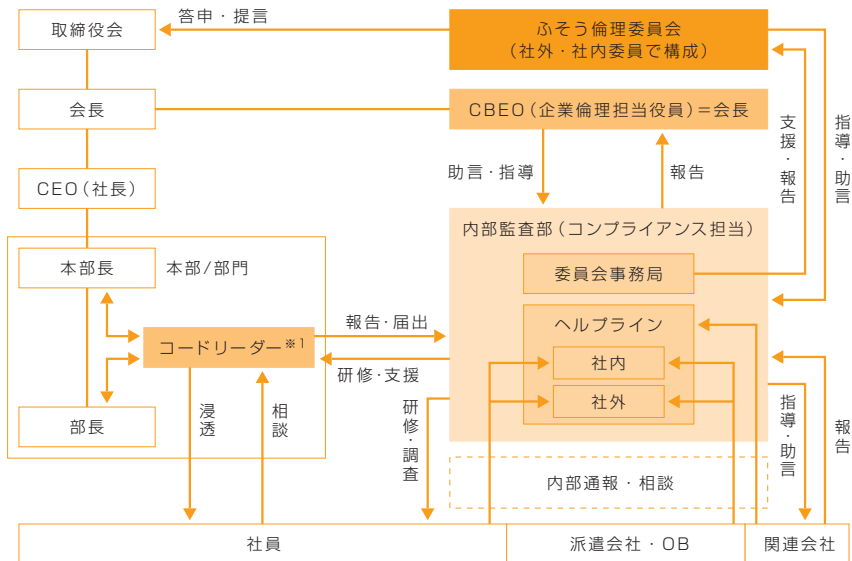


製品の品質向上、価格低減に努めてお客様の期待に応えることは当社の当然の義務ですが、それだけではありません。三菱ふそうは、様々なステークホルダーからその存在を認められ、社会の持続可能な発展に貢献することが重要と考えます。以下に当社の社会的側面 ― お客様や従業員との関わり、地域の方々との関わり、企業倫理の考え方、福祉活動、文化・芸術・スポーツ活動など ― に関する取り組みを紹介致します。今後もこれらの活動を通して三菱ふそうは、社会とのコミュニケーションを高めていきます。

1. 企業倫理

三菱ふそうは過去の反省を踏まえ、企業倫理に関する推進体制(下図)を確立し、以下のようなコンプライアンスの定着に向けた取り組みを進めています。

グループ企業倫理管理体制(組織)2006年4月現在



※1「コードリーダー」は原則、各部に1名選任され、部長の分身として、部長と対等な立場を有し、又、倫理に関する各職場の相談窓口として機能し、倫理の面から職場モチベーションの向上を図る。

企業倫理の取り組み

(1) コンプライアンス遵守宣言の展開

安全思想の風化防止も含め、毎年、社員全員がコンプライアンス遵守の誓約書に署名を行い、遵守宣言を行っています。

(2) ポケットカード配布(常時携帯)

三菱ふそう行動指針の大項目、コンプライアンスチェック項目、ヘルプラインの連絡先を掲載したポケットカードを社員全員に配布し、常時携帯することでコンプライアンスの定着を図っています。

(3) 職場コードリーダーの運営と職場の活動

職場コードリーダーについては企業倫理施策における部門内のサポート、部門コンプライアンス方針実現の推進役を担うとともにその結果のフィードバックを行い、部門コンプライアンス推進を図っています。企業倫理施策の展開にあたっては、職場コードリーダーの育成も含め、定期的に会議を開催し、連携を図っています。

(4) 法令・コンプライアンス研修

法令マニュアル(道路運送車両法)を作成し、各階層別(部長・管理職以上)にマニュアル及びコンプライアンス違反事例による法令研修を実施しました。また、それをベースに管理職による職場法令研修を全社員対象に展開しました。今後も随時他の法令をマニュアル化し、研修を継続実施します。

また、同様に行動指針や外部講師による講演を中心としたコンプライアンス研修も展開するとともに、役員以上を対象とした外部講師(弁護士など)による特別講演を実施しております。今後も社員意識調査などにより研修内容を検討していきます。

(5) 倫理体制強化に向けた取り組み

企業倫理管理体制(組織)のもとで、コンプライアンス定着の取り組みに加え、社外から見た目、一般社員から見た目を重要な位置づけとして捉え、取り組んでおります。

① ふそう倫理委員会による提言

定期的に委員会を開催しコンプライアンス取り組みのチェックを行うとともに企業としてあるべき姿について提言をいただいております。

2. 品質向上

②自浄プロセスの向上に向けたヘルプライン

2006年4月の公益通報者保護法への対応を踏まえ、内部通報者保護の観点を織り込む等現在の「ヘルプライン運営要領」を見直した上、内部通報者保護取扱を定めました。これを広く社員に周知するとともに、コンプライアンス強化、不正行為などの不祥事防止、自浄プロセスの向上を図っています。

(6)グループコンプライアンスの強化

①関連会社社長等へのコンプライアンス研修

2006年5月新会社法の施行を踏まえ、関連会社社長・管理担当役員に対して、グループコンプライアンスの基本的な考え方の説明をはじめ、コンプライアンス違反事例、外部講師によるコンプライアンス経営についての講演などの研修や新任役員に対する特別研修も実施しております。

②グループのコンプライアンス憲章の制定

三菱ふそうグループとしてのコンプライアンス憲章を制定し、憲章を記載したコンプライアンスカードを全社員に配布し、徹底を図っております。

③関連会社へのガイドライン提示

関連各社独自の取り組みについて、コンプライアンス強化に向けた取り組みのガイドラインを提示し、指導を実施しております。

品質改善への取り組み

品質不具合は、お客様にご迷惑をかけ、企業にとっても存続に関わる重大事項です。さらに企画、開発、製造からアフターサービスまで一旦投入したエネルギーが無駄になるので、品質不具合は環境面でも問題であるといえます。つまり、品質改善は環境保全の重要なポイントでもあるわけです。

三菱ふそうの品質問題は、私たちの仕事の仕方が悪かった結果であると捉え、その再発を防止するために私たちの仕事を変えていく活動の1つとして、世界で通用する権威ある品質マネジメントシステムISO9001:2000の認証を全社で取得することにしました。三菱ふそうにとって認証取得は、それ自体が目的ではなく、お客様に満足していただける商品やサービスの提供が出来るような体質に生まれ変わり、全社のプロセスを改善し全社員一丸となって品質管理体制の強化に取り組むためのひとつのマイルストーン(通過課題)という位置づけでした。三菱ふそうは品質方針として、「信頼度No.1企業へ 常に、期待される以上の答えを。」を掲げ、2005年の1年間かけて、従来の業務プロセスを全社レベルで見直して、品質マネジメントシステムを再構築しました。

この見直しの基準はISO9001:2000で要求されている「顧客満足実現のためのプロセスアプローチ」に置きました。

ISO9001の活動範囲は全事業所を対象とし(注:3月1日付で統合した販売拠点を除く)、開発・購買・生産・販売はもちろん、財務、経営戦略など、当社全てのプロセスに及んでいます。適用除外範囲はありません。

ISO9001で要求されている最も重要な文書「品質マニュアル」を「マネジメントマニュアル」と呼ぶことにし、この活動が会社全ての部門に関わるとの考え方を徹底し、業務全てに「質の向上=お客様の満足」を目指すことを社内に浸透させようとしています。

「質の向上=お客様の満足」を目指す活動のベースとして、「品質マネジメントの8原則」を三菱ふそうでは下記(次ページ)のように決めてマネジメントマニュアル、ポスター、品質カードなどに盛り込み社員の一人一人が日々の業務に心がけました。

三菱ふそう品質マネジメントの8原則

- 1：我々は常にお客様の目線で仕事をします。後工程も大事なお客様です。(顧客重視)
- 2：トップだけでなく、あなたのリーダーシップもまた重要です。(リーダーシップ)
- 3：品質はみんなの仕事です。部門を越えた取り組みをします。(人々の参画)
- 4：組織の壁を越えて、仕事に取り組みましょう。(プロセスアプローチ)
- 5：透明性の高いマネジメントを目指します。(システマティックアプローチ)
- 6：“改善、改善、また改善”(継続的改善)
- 7：三現主義(現場、現実、現物)で行動しましょう。(事実に基づく意思決定)
- 8：70%は購入品です。協力会社と一緒に競争を勝ち抜きましょう。(供給者との互惠関係)

このような活動を通じて、2006年1月にテュフラインランドジャパンによるISO9001:2000の厳正な審査を受けて、3月8日付で認証を取得しました。



テュフラインランドジャパンによる外部審査



ISO9001:2000認定証の取得

仕事のプロセスは一応まとまりましたが更に全社で継続的改善を進めることが肝要と考えています。

三菱ふそうは、上記の活動を進める中で、ISO9001事務局主催で約20名のトップレベル向けセミナーを始め、80名余の各部門活動推進者への「推進者向けセミナー」、40名の内部監査員教育、約700名の部長・マネジャーレベル以上への「規格セミナー」を実施し、各部門の推進者やマネジャーは、それぞれの部門で全員へ部門に応じた品質教育を実施しました。また、人材開発部門主催の新入社員、中途採用者、職務昇進者、新任作業長、新任副作業長等を対象とした13回に亘る階層別教育(受講者各回30~50名)の中でも「ISO9001活動及び品質方針・顧客重視・プロセスアプローチ」セミナーを実施しました。

さらに専門的な品質教育として、中堅技術者を対象とした「信頼性手法(FMEA/FTA)セミナー2日間基礎・演習コース」(12回、受講者300名)と「統計的品質管理セミナー」(受講者30名、140時間+事後課題)を実施しました。これらは、いずれも各自が実践活動の評価まで実施し講師が個別に指導することにより、実際に使いこなしながらレベルアップが図られ効率的なプロセス運営が可能になりました。

品質向上に魔法の杖はありません。三菱ふそうはこれらの人材育成教育により、各部門の実務担当者が学んだ当たり前のやるべきことを、業務の中で地道にコツコツと実践して、不具合を未然に防ぎ『お客様満足の追求』をめざす体質を築くように取り組んでいます。当社の商品はお客様にとって重要な道具として大変長い間大切に使用して頂いております。それだけに私たちの仕事の仕方の改善に終わりは無いことを肝に銘じ、お客様の信頼が得られるよう、品質改善に取り組んで参ります。

FPD (Fuso Product Development)



● FPDの概要

三菱ふそうはFPDという商品開発プロセスを使用した製品作りを行っています。これは従来のFUSOクオリティチェックゲート(QCG)に対し、DC(ダイムラー・クライスラー)商用車部門のクオリティゲート(CV-DS)の概念を取り入れてプロセスを見直したものです。FPDには、品質重視の考えから、新たなクオリティゲートが追加されると同時に、ゲートを通過するための基準や各ゲートの成果物が明確化されています。

● FPDのプロセス

FPDには車両プロセス(QG10からQG0)とパワートレインプロセス(QG P8からQG P1)の2つのプロセスがあります。これにより、

- ◇異なる要件/内容を考慮し、商品開発プロセス全体の複雑性を低減させること
- ◇車両開発の時期を待たずに、パワートレインのプラットフォームをグローバルに統合化することが可能となります。2つのプロセスの主な同期点を決定し、プロセスを統合させることが重要なポイントです。

● FPD導入のメリット

1) フロントローディングによる商品開発の効率化

フロントローディングとは「仕事の前倒し」という意味で、クロスファンクショナルな取り組みにより早期にお客様の視点に立った車両に対する市場要望を把握し、それをコンポーネントの仕様要件にまで落とし込むプロセスを意味します。これにより、スペック最終化以降の設計変更作業を最小限に抑え、商品開発効率化を図ることができます。

2) クオリティゲート/プロセス管理によるプロセス品質の確保

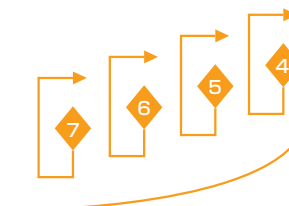
◇明確なプロセスと評価基準の定義

FPDでは各クオリティゲートを通過する必要条件として、成果物が明確に定義されており、各プロセスで何をしなくてはならないかを正確に把握できます。これにより、ふそうの全てのプロジェクトにおいて同じプロセス定義に従った運用が可能です。

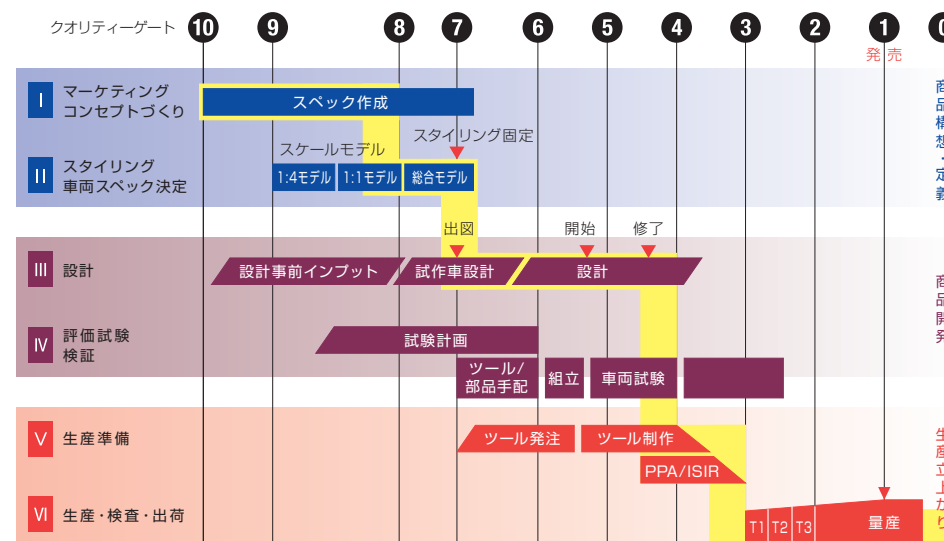
◇プロセスの透明性の確保による課題への早期対応

ふそうプロダクトコミッティー (FPC)が商品プロジェクトのクオリティゲート通過判定に関する責任を担っており、ここでクオリティゲートに関するあらゆる説明、確認が行われます。また、課題への対応もいち早く実行されます。

プロセス管理の概念図



FPD (Fuso Product Development)プロセス



開発プロセス全体をゲート10から0迄のクオリティゲートにより区分する

3. お客様との関わり

お客様相談センター

お客様相談センターは、お客様と直接接する窓口として、お客様からの幅広いご相談(お問合せ・ご意見等)に対応しています。

同センターでは、お客様にご満足頂くため、「迅速・的確・真摯」に対応するよう努めています。また、お客様から寄せられた貴重な声は、社内担当部門へフィードバックし、商品開発・販売・サービス活動におけるCS向上に役立てています。

三菱ふそうお客様相談センター

電話番号：0120-324-230 (全国共通フリーダイヤル)

受付時間：月～金(除く所定の休日) 9:00～12:00 13:00～17:00

お客様への情報の提供

三菱ふそうは、インターネットホームページ(<http://www.mitsubishi-fuso.com/jp/index.html>)を通じて、様々な情報をタイムリーに且つ継続的に提供しています。

商品・技術情報、企業情報、ニュースリリース、環境への取り組み、リコール情報等があり、リコール情報のページでは、お客様のお車が「リコール・改善対策及びサービスキャンペーン」の対象車両に該当するかどうかを自動検索することが出来ます。



三菱ふそうホームページ

4. 人にやさしい製品の普及

人にやさしい製品の普及

近年、身体障害者の方々の社会参画や高齢化の進行への対応といったニーズによって各自動車メーカーから「福祉車両」と呼ばれる車が続々と発売されています。その中でも交通バリアフリー法に代表される公共交通のニーズは一層高まっております。三菱ふそうは1997年に国内初的大型低床バスを「ノンステップバス」として発売したのを皮切りに低床バスの普及に努め、中小型低床バス「エアロミディ」シリーズの発売、標準仕様ノンステップバス認定制度への適合とそのラインナップを広げてきました。また、環境にやさしいバスとしてハイブリット車の「エアロノンステップHEV」、天然ガス自動車の「エアロスターCNG」をラインナップしています。



エアロノンステップHEV

小型バス「ローザ」では車いすのまま乗り込むためのリフトや車いす固定装置等を装備したチェアデッキバージョンをラインナップし、福祉施設、病院などの送迎で活躍しています。2005年4月に大阪で行われた福祉機器展の「バリアフリー2005」、5月に名古屋で行われた「ウェルフェア2005」にもチェアデッキバージョンを出展しています。また、その出展車両は5月に行われた「三菱ダイヤモンドカップゴルフ2005」のチャリティ基金により神戸市社会福祉協議会に寄贈されました。



バリアフリー2005

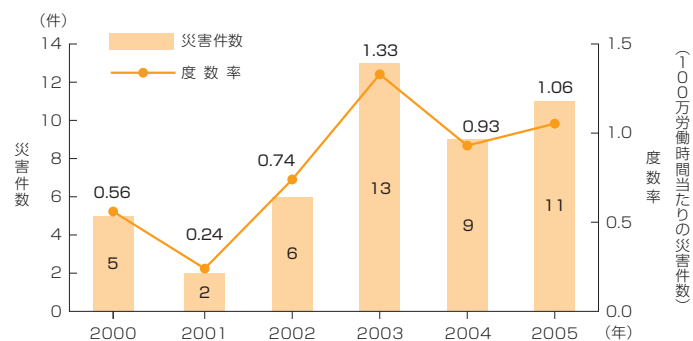
5. 従業員との関わり

安全・衛生

(1) 労働安全

安全で作業者に優しい職場環境の実現に向け、『社員の安全と健康の確保は全てに優先する』ことを基本理念として、全員参加で労働災害防止活動を継続的に推進しています。活動は、モラル・マナーのレベルアップと共に①不安全行動の排除②設備の本質安全化③類似災害防止の3本柱を中心に、休業災害・不休業災害に加え、微小なケガも含めた災害の根絶に努めており、究極の目標である『災害ゼロ』を目指しています。

災害発生状況



(2) 交通安全

社員の交通事故防止や意識の向上を目指し、交通安全講習会や通勤時の車両・自転車運転者、歩行者への交通指導を実施しています。また、新入社員を対象に車両運転時の危険感受度テストを実施し、感受性や認知度等のアドバイスをしています。

(3) 快適な職場づくり

社員が働きやすい職場環境を形成するため、各種専門委員会等を設置し、現場をはじめとした全般的な作業環境改善を計画的に推進しています。

(4) 健康づくり

『健康は自らつくり管理するもの』という考え方を基本に社員個人や職場に対し、産業医、保健師による健康支援活動を推進しています。主な活動としては健康診断結果に基づくフォローをはじめ、各職場に出向きテーマ別に教育指導を行う「健康づくり宅配便」等を実施しています。

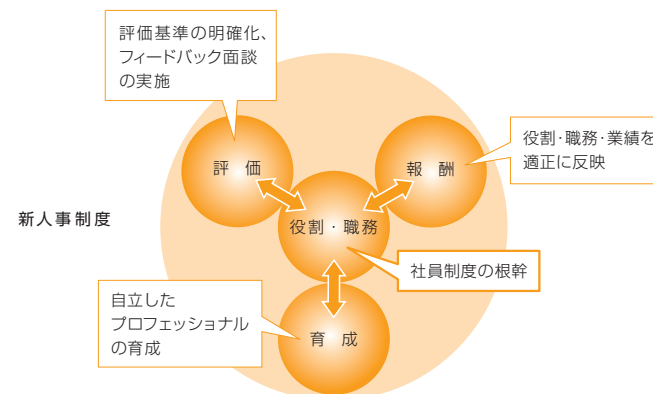
(5) メンタルヘルス

精神科医やカウンセラーの他、保健師等により相談しやすい体制をつくり対応しております。また、社員に対しメンタルヘルスに関する教育を実施しています。

人事制度

三菱ふそうでは、競争の激しい商用車業界の中で、グローバル企業として成長を継続していくために、人事制度の改革を行っています。

具体的には、従来の年功的な要素を払拭して、評価、報酬、昇進など処遇全般を、職務、役割や成果に基づき決定する成果重視型の人事制度になっています。新人事制度は、役割・職務を中心に評価、報酬、育成が密接に関係し、機能します。例えば、評価は報酬を決定するだけでなく、教育、異動、昇進など、育成施策や役割・職務の変更を考えるベースになります。フィードバック面談を実施することにより、評価の結果を伝えるとともに、目標、課題、育成方針等についても話し合い、日常のコミュニケーションを補完し、風通しのよい職場づくりに努めています。



社内コミュニケーション

三菱ふそうは以下のような各種の社内コミュニケーションを実施しています。全社員が必要な情報を正確かつタイムリーに共有し、意識を共有することは、重要と考えています。

◎イントラネット

“Business Station”をトップページとしたサイトを開設し、トップからのメッセージ、各種お知らせ、社内外ニュースなどの情報を提供しています。



Business Station

◎社内報

“FUSO TIMES”を毎月発行し、全社員に配布しています。経営トップのインタビューから、各種イベントや各部門での出来事まで、幅広い情報を提供しています。



FUSO TIMES

◎タウンホールミーティング

川崎地区と品川地区にて全社員を対象に開催されます。社長からダイレクトなメッセージを全社員に伝えます。

◎キャンター エコ ハイブリッド社内発表セレモニー

2006年7月3日、キャンター エコ ハイブリッドの発売を前に、川崎製作所において社内発表セレモニーを開催しました。社長、関連役員、労働組合代表をはじめ約1000人以上の社員が集まり、皆で同車の発売を祝いました。



◎社員相談室

社内外のヘルプラインからなる体制を構築し、内部通報者の保護を社内標準で規定した上で、コンプライアンス強化、自浄プロセスの向上などを図っています。(→48ページ参照)

◎「本業回帰」プログラム講演会シリーズ

三菱ふそうは2005年2月～7月に、同講演会を開催しました。これは、品質問題を解決する中でいかに本業にフォーカスを当てるかをテーマとして2004年から実施された「本業回帰プログラム」の一環となるもので、社外講師を招き、三菱ふそうが目指すビジョン(品質、社会的責任など)について社外の視点から考察するものです。各講演では、他社や社外専門家の興味深い経験や成功例を通して多くの事例を学ぶことができました。

本業回帰プログラム講演会(2005年)

	テーマ	講演者	開催月
第1・2回	トップ企業のリスクと再生	放送大学教授/横浜国大名誉教授 吉森 賢氏	2月
第3・4回	プロフェッショナル人材の育成	(株)リクルートワークス研究所 所長 大久保幸夫氏	3月
第5・6回	チェンジ・モンスター～変革を阻害する怪物たち～	ポストン・コンサルティング・グループ VP 今村英明氏	4月
第7・8回	よき企業市民となるためには	GE横河メディカルシステム(株)代表取締役社長 三谷宏幸氏	5月
第9・10回	チェンジ・リーダー	神戸製鋼所 ラグビー部 GM 平尾誠二氏	6月
第11・12回	人的安全向上による品質向上	日本ヒューマンファクター研究所 石橋明氏	7月



吉森教授による第1・2回講演会



平尾氏による第9・10回講演会

6. 福祉活動

地震等の被災支援

◎2004年12月、インドネシアのスマトラ島沖で発生した地震および津波の被災者の方々に、下表のとおり義援金等の支援を実施しました。

項目	内容	寄付・寄贈先等
義援金	1,000万円	日本赤十字社
三菱ふそう社員等による寄付金	272万円	日本赤十字社
車両(寄贈)	トラック25台	現地法人を通じ支援

◎2005年10月、パキスタン北東部カシミール地方で発生した地震による被災者の方々の支援のため、シンガポール赤十字に2万5千ドルを寄付しました。

ピアノパラリンピック in JAPAN

2005年1月9,10日にピアノパラリンピック実行委員会主催で身体障害者の方々を対象としたピアノのコンクール、「第1回 ピアノパラリンピック in JAPAN」が横浜みなとみらいホールで開催されました。三菱ふそうは「特別協賛」として参加者送迎用バス(3台)を提供させて頂きました。



社員による寄付金を日本赤十字社へ



寄付金を渡すファンダイク副社長(左)



参加者送迎用バス

7. その他の社会活動

スポーツ活動

◎三浦国際マラソン

三菱ふそうは、1989年から毎年、三浦国際市民マラソンへの特別協賛を行っています。今年も大会会場で「三浦海岸美化キャンペーン」を実施し、ゴミ用袋の配布や、チャリティー募金を実施しました。



三浦国際市民マラソン

◎サッカー

三菱ふそうは、Jリーグ2006年シーズンにおいて「浦和レッドダイヤモンズ」のユニフォームスポンサーを務めています。今後も浦和レッズを応援していきます。



浦和レッドダイヤモンズ

◎野球

三菱ふそう硬式野球部は、社会人野球の名門であり都市対抗野球に地区代表として17回出場し、2000年・2003年・2005年と3回の優勝を果たしています。また、日本代表選手やプロ野球選手も輩出しており、日本野球の発展に大きく貢献しています。



第76回都市対抗野球大会

日独文化交流

2005年4月から日独両国友好のためのプロジェクト「日本におけるドイツ年2005/2006」が展開されており、その一環として三菱ふそうは次のような日独高校生交流プログラムを支援しています。

◎高校ビッグバンド後援

三菱ふそうは、ドイツのリッタースベルク高校ビッグバンドの演奏会活動を支援しました。同バンドは2005年10月から11月にかけて、埼玉、滋賀、京都、広島の高校や、川崎市の小学校などで演奏を行い、両国の文化交流を図りました。



リッタースベルク高校ビッグバンド

◎たけのこプログラム(日独高校生交流)

同プログラムは、日独両国の高校生を対象に、渡航費用の一部を支援するものです。ダイムラー・クライスラーと三菱ふそうは共同スポンサーとして総額10万ユーロを拠出します。2005年12月、三菱ふそうは同プログラムを運営する(財)ベルリン日独センターとの間で調印式を行いました。



たけのこプログラム調印式※1

※1 左から：江頭会長とプルストラー社長(三菱ふそう)、ボームガールデン独外務事務次官、山中外務政務次官、上田ベルリン日独センター副事務総長、シュミーゲロー駐日ドイツ大使

◎ダイムラー・クライスラーのタベ(バレエ公演)

2005年11月に三菱ふそうとダイムラー・クライスラー日本株式会社(DCJ)は「ダイムラー・クライスラーのタベ」を共催しました。これは両社が初めて共催した「日本におけるドイツ年」に関連する行事で、東京文化会館(上野)において「シュツットガルト・バレエ団」による「オネーギン」の特別公演などを実施しました。

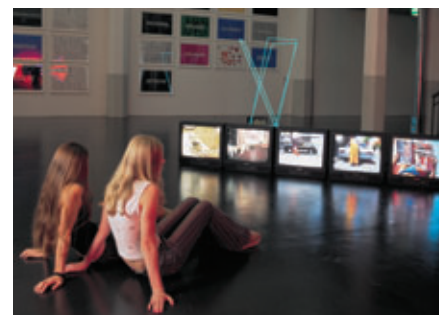


シュツットガルト・バレエ団

◎アートと話す/アートを話す(展覧会)

ダイムラー・クライスラー・ファウンデーション・イン・ジャパンと東京オペラシティアートギャラリーは2006年1～3月、『「アートと話す/アートを話す」バウハウスからコンテンポラリー：ダイムラー・クライスラー・アート・コレクション』展を開催しました。同展覧会はDC社の所有する約1300点の現代アート作品の中から選りすぐられた作品を紹介する世界巡回展です。三菱ふそうは協賛会社として、参加者の移動用バスを提供しました。

All photos: DaimlerChrysler Art Collection



コレクション展示風景
(ビデオ作品5点、シルヴィ・フルーリー/Sylvie Fleury)



ジョン・M・アームレーダー/John M. Armleder
《してはいけない!》1997/2000

8. 地域社会への貢献

スケッチコンクール

三菱ふそうは2005年8～9月に全国の幼稚園児・保育園児を対象とした「サマースケッチコンクール」を実施し、約4万6千点の応募作品を収集しました。現代画壇の第一人者として活躍中の山本貞先生を委員長とした審査員による審査の結果、最優秀賞3名、優秀賞5名、準優秀賞10名、そして佳作70名が選出され、賞品が贈呈されました。



最優秀賞3作品



横浜トリエンナーレ2005 (現代美術の祭典)

横浜市主催の同祭典は2005年9～12月に開催され、世界30カ国・地域から86人のアーティストが参加しました。三菱ふそうはスポンサーを務める一方、イギリス人アーティスト、リチャード・ウィルソンさんが行うトラックを使ったアート用として、スーパーグレート(大型トラック)を横浜市に提供しました。

地域の皆さま/団体との共生

三菱ふそうでは、下記の活動を通して地域の皆さまとの交流・融和を目指しています。

項目	内容
工場見学会	・地域住民、小学校、団体、社員の家族等を対象に実施 2005年度見学者数 計3,000人
学校への協力	・市内小学校対象の野球教室を開催 ・地元小学校への写真付ニュースの提供
会社施設の開放	・体育館等を地域に開放
地元自治会への加入	・祭り・フェスティバル等への協賛
環境関連等団体への参加や寄付	・地域社会の活動に対する支援
地域の清掃・緑化	・工場周辺の清掃活動 ・川崎市主催緑化運動「花と緑のある街づくり」への参加



小学生野球教室



工場周辺の清掃活動

三菱ふそう マナーもミラーもみがき隊

2005年8月3,4日、新任マネージメント研修の一環で、川崎工場周辺のカーブミラー清掃・点検を実施し、両日で延べ118名が参加し、合計381本(494枚)の清掃を行ないました。



カーブミラー清掃作業



活動に参加した社員

ふそうフェスタ in きつれがわ

2005年10月16日、喜連川研究所が開設25周年を迎えたことを受け、日頃からお世話になっている地元の皆様に招待して、設備見学、製品展示の外、多くのイベントを行ないました。また、2005年4月に誕生した「さくら市」に小型トラック「キャンター」1台を寄贈しました。



きつれがわ幼稚園 鼓笛隊



秋元さくら市長(左)にキャンターのキーを贈呈する江頭会長

三菱ふそう 大感謝フェア

2005年11月20日、川崎工場にて開催され、多くの地元の皆様や社員・家族の方々が来場され、賑わいました。



三菱ふそう 大感謝フェア

第7回川崎市地球環境フォーラム

2005年1月24日、「かわさき地球温暖化対策推進会議」・川崎市主催の同フォーラムが開催されました。当社からは、製品や生産に関する環境取り組みを紹介するポスターや部品の展示を行ないました。



川崎市地球環境フォーラム